



よく寄せられる質問

この章では、Cisco Business ダッシュボードの機能と、発生する可能性がある問題についてよく寄せられる質問に回答します。内容は次のカテゴリに分類されます。

- [一般的な FAQ \(1 ページ\)](#)
- [検出の FAQ \(2 ページ\)](#)
- [設定の FAQ \(3 ページ\)](#)
- [セキュリティ上の留意事項の FAQ \(3 ページ\)](#)
- [リモートアクセスの FAQ \(9 ページ\)](#)
- [ソフトウェアアップデートの FAQ \(10 ページ\)](#)

一般的な FAQ

Q. Cisco Business ダッシュボードではどのような言語がサポートされていますか。

A. Cisco Business ダッシュボードは以下の言語に翻訳されています。

- 中国語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語

- スペイン語

検出の FAQ

- Q.** Cisco Business ダッシュボードはデバイスを管理するためにどのプロトコルを使用しますか。
- A.** Cisco Business ダッシュボードは各種のプロトコルを使用してネットワークを検出および管理します。特定のデバイスに対して正確にどのプロトコルが使用されるかは、デバイスの種類によって異なります。

使用されるプロトコルには以下のものがあります。

- Multicast DNS および DNS Service Discovery (*Bonjour* と呼ぶ。RFC 6762 と 6763 を参照)
- Cisco Discovery Protocol (CDP)
- Link Layer Discovery Protocol (『IEEE specification 802.1AB』を参照)
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)
- RESTCONF (<https://datatracker.ietf.org/doc/draft-ietf-netconf-restconf/> を参照)
- 独自の Web サービス API

- Q.** Cisco Business ダッシュボードはネットワークをどのように検出しますか。
- A.** Cisco Business ダッシュボード Probe は、CDP、LLDP、および mDNS アドバタイズメントをリッスンすることで、ネットワーク内のデバイスの初期リストを作成します。次に Probe は、サポートされているプロトコルを使用して各デバイスに接続し、CDP および LLDP 隣接テーブル、MAC アドレステーブル、関連するデバイスリストなどの追加情報を収集します。この情報はネットワーク内の追加のデバイスを識別するために使用され、すべてのデバイスが検出されるまでこのプロセスが繰り返されます。

- Q.** Cisco Business ダッシュボードはネットワークスキャンを行いますか。
- A.** Cisco Business ダッシュボード Probe は、広範囲のネットワークを積極的にスキャンすることはありません。Probe は ARP プロトコルを使用して直接接続されている IP サブネットをスキャンしますが、その他のアドレス範囲をスキャンすることはありません。Probe は検出されたデバイスごとに標準ポートの Web サーバと SNMP サーバの存在の有無もテストします。

直接管理されるネットワークの場合、必要に応じてスケジュールプロファイルを作成し、管理可能なデバイスの指定された IP 範囲をアクティブにスキャンすることができます。

スキャンが実行されると、ダッシュボードは、デバイスが管理可能かどうかを判断するために、指定された範囲内の各 IP アドレスの Web サーバーポートへの接続を試みます。

設定の FAQ

- Q. 新しいデバイスが検出されると何が起こりますか。その設定は変更されますか。
- A. 新しいデバイスはデフォルト デバイス グループに追加されます。デフォルト デバイス グループに設定プロファイルが割り当てられている場合は、その設定が新たに検出されたデバイスに適用されます。
- Q. デバイスのあるデバイス グループから別のデバイス グループに移動した場合、何が起こりますか。
- A. 元のデバイスグループに現在適用されているプロファイルに関連付けられているすべての VLAN または WLAN 設定は削除され、元のグループに適用されない、新しいグループに適用されるプロファイルに関連付けられている VLAN または WLAN 設定がデバイスに追加されます。システム設定は、新しいグループに適用されるプロファイルによって上書きされます。新しいグループに対してシステム設定プロファイルが定義されていない場合、デバイスのシステム設定は変化しません。

セキュリティ上の留意事項の FAQ

- Q. Cisco Business ダッシュボードではどのポート範囲とプロトコルが必要ですか。
- A. 以下の表に、Cisco Business ダッシュボードが使用するプロトコルとポートの一覧を示します。

表 1: Cisco Business ダッシュボード: プロトコルとポート

ポート	方向	プロトコル	使用方法
TCP 22	着信	SSH	Dashboard へのコマンドラインアクセス。Cisco 仮想マシンイメージで SSH はデフォルトで無効になっています。
TCP 80	着信	HTTP	Dashboard への Web アクセス。セキュア Web サーバ (ポート 443) へのリダイレクト。
TCP 443	着信	HTTPS 多重化 TCP	Dashboard へのセキュア Web アクセス。 Probe と Dashboard 間の通信。

ポート	方向	プロトコル	使用方法
UDP 1812	着信	RADIUS	ユーザーアクセスを認証するときのダッシュボードへのデバイスアクセス。
TCP 50000 ~ 51000 (Microsoft Azure マーケットプレイスからデプロイされたシステムは TCP 50000 ~ 50049 を使用します)	着信	HTTPS	デバイスへのリモートアクセス。 この範囲は、[System] > [Platform Settings] ページを使用して制御できます。
UDP 53	発信	DNS	ドメイン名解決。
UDP 123	発信	NTP	時刻の同期。
TCP 443	発信	HTTPS	ソフトウェアアップデート、サポートステータス、サービス終了通知などの情報を得るための、シスコ Web サービスへのアクセス。OS およびアプリケーション更新サービスへのアクセス。
UDP 5353	発信	mDNS	Dashboard をアドバタイズする、ローカルネットワークへのマルチキャスト DNS サービスアドバタイズメント。

- Q. Cisco Business ダッシュボード Probe ではどのポート範囲とプロトコルが必要ですか。
- A. 以下の表に、Cisco Business ダッシュボードプローブが使用するプロトコルとポートの一覧を示します。

表 2: Cisco Business ダッシュボード: プロトコルとポート

ポート	方向	プロトコル	使用方法
TCP 22	着信	SSH	Probe へのコマンドラインアクセス。Cisco 仮想マシンイメージで SSH はデフォルトで無効になっています。
TCP 80	着信	HTTP	Probe への Web アクセス。セキュア Web サーバ (ポート 443) へのリダイレクト。

ポート	方向	プロトコル	使用方法
TCP 443	着信	HTTPS	Probe へのセキュア Web アクセス。
UDP 5353	着信	mDNS	ローカル ネットワークからのマルチキャスト DNS サービス アドバタイズメントデバイス検出に使用。
UDP 53	発信	DNS	ドメイン名解決。
UDP 123	発信	NTP	時刻の同期
TCP 80	発信	HTTP	セキュア Web サービスが有効になっていないデバイスの管理。
UDP 161	発信	SNMP	ネットワーク デバイスの管理。
TCP 443	発信	HTTPS 多重化 TCP	セキュア Web サービスが有効になっているデバイスの管理ソフトウェア アップデート、サポートステータス、サービス終了通知などの情報を得るための、シスコ Web サービスへのアクセス。 OS およびアプリケーション更新サービスへのアクセス。 Probe と Dashboard 間の通信。
UDP 5353	発信	mDNS	Probe をアドバタイズする、ローカルネットワークへのマルチキャスト DNS サービス アドバタイズメント。

- Q.** Cisco Business ダッシュボードはどのシスコサーバーと通信しますか。なぜですか。
- A.** 次の表に、Cisco Business ダッシュボードが通信するシスコサーバーとそのやり取りの目的を示します。

表 3: Cisco Business ダッシュボード - シスコサーバー

ホストネーム	目的
tools.cisco.com	スマートライセンスで使用されます。スマートアカウントの Dashboard に十分なライセンスがあることを確認します。このサーバーは、Dashboard インスタンスが Cisco Smart Licensing に登録されている場合にのみ使用されます。

ホストネーム	目的
api.cisco.com	ソフトウェア更新情報と製品ライフサイクル情報を取得するために使用されます。このサーバは、ソフトウェアの更新またはライフサイクルレポートが[System]>[Privacy Settings]で有効になっている場合にのみ使用されます。
dl.cisco.com download-ssc.cisco.com	シスコからソフトウェア更新ファイルをダウンロードするために使用されます。 これらのサーバは、[System]>[Privacy Settings]でソフトウェアの更新が有効になっているときに、ネットワークデバイスやCisco Business ダッシュボードのアップグレード操作を実行する場合にのみ使用されます。
cloudsso.cisco.com	api.cisco.com との通信に先立つ Cisco Business ダッシュボードの認証に使用されます。このサーバは、ソフトウェアの更新またはライフサイクルレポートが[System]>[Privacy Settings]で有効になっている場合にのみ使用されます。
ciscoactiveadvisor.cisco.com	製品改善データを収集し、CAA へのアップロード機能をサポートするために使用されます。このサーバは、製品の改善が[System]>[Privacy Settings]で有効になっている場合や、CAA へのアップロード機能を使用する場合にのみ使用されます。
www.cisco.com	ネットワーク通信の保護のためにシスコおよびサードパーティのサービスにより使用される X509 証明書を検証する目的で使用される、ルート認証局の署名証明書の更新を取得するために使用されます。

- Q. Cisco Business ダッシュボードにはどのようなプロセスとシステムサービスが必要ですか。
- A. 次の表に、Cisco Business ダッシュボード がシスコサーバで使用するプロセスとシステムサービスを示します。

表 4: Cisco Business ダッシュボード - プロセスとシステムサービス

プロセス	詳細情報
Dashboard の必須プロセス	
/usr/lib/jvm/java-8-openjdk-amd64/bin/java ... -jar /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/lib/nm-aio-application-x.x.x-SNAPSHOT.jar	Dashboard のメインアプリケーション
/usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/nginxsvc /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/nginx	ウェブ サーバ

プロセス	詳細情報
Dashboard の必須プロセス	
/usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/mongosvc /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/mongod /usr/lib/postgresql/xx/bin/postgres postgres: xx/main:	データベース サービス
/bin/bash /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/freeradiusvc /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/freeradius	ユーザー認証サービス
/usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/redissvc /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/redis-server	インメモリ キャッシュサービス
/usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/rabbitmqsvc /usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/rabbitmq-server /usr/lib/erlang/erts-xx.x.x.xx/bin/epmd /usr/lib/erlang/erts-xx.x.x.xx/bin/epmd.smp erl_child_setup	メッセージブローカ
/usr/lib/ciscobusiness/dashboard/bin/bonjoursvc avahi-publish	マルチキャスト DNS アナウンスメント
/bin/sh /usr/share/contuit/contuit /bin/sh /usr/share/contuit-computations/contuit-computations /bin/sh /usr/share/contuit-monorepo/contuit-mop /bin/sh /usr/share/contuit-scheduler/contuit-scheduler /bin/sh /usr/share/contuit-shim/contuit-shim	外部アプリケーションとの統合が有効な場合にのみ必要
Dashboard の必須システムサービス	
/usr/sbin/rsyslog	ロギングサービス
/usr/sbin/cron	スケジューリングサービス
systemd-timesyncd	タイムサービス
avahi-daemon	マルチキャスト DNS リスナー

- Q.** Cisco Business ダッシュボード Probe にはどのようなプロセスとシステムサービスが必要ですか。
- A.** 次の表に、Cisco Business ダッシュボード Probe がシスコサーバで使用するプロセスとシステムサービスを示します。

表 5: Cisco Business ダッシュボード - プロセスとシステムサービス

プロセス	詳細情報
Probe の必須プロセス	
/usr/lib/ciscobusiness/probe/bin/cbdprobe chagent	プローブのメインアプリケーション
/usr/lib/ciscobusiness/probe/bin/fpscan	デバイススキャンツール
/usr/lib/ciscobusiness/probe/bin/main /usr/lib/ciscobusiness/probe/bin/publish avahi-publish	マルチキャスト DNS アナウンスメント
nginx	Web サーバ Dashboard サーバに配置されている場合、プローブは Dashboard Web サーバを共有します。
Probe の必須システムサービス	
/usr/sbin/rsyslogd	ロギングサービス
/usr/sbin/cron	スケジューリングサービス
systemd-timesyncd	タイムサービス
avahi-daemon	マルチキャスト DNS リスナー
lldpd	LLDP ネイバー探索

- Q.** Cisco Business ダッシュボードと Probe 間の通信はどれほど安全ですか。
- A.** Dashboard と Probe 間の通信は、クライアントとサーバーの証明書で認証された TLS 1.2 セッションを使用して暗号化されています。セッションは Probe から Dashboard に対して開始されます。Dashboard と Probe 間の関連付けを最初に確立する際、ユーザは Probe 経由で Dashboard にログインする必要があります。
- Q.** Cisco Business ダッシュボードはデバイスに「バックドア」アクセスできますか。
- A.** いいえ。Cisco Business ダッシュボードは、サポートされているシスコデバイスを検出すると、検出されたデバイスの工場出荷時のログイン情報（ユーザー名/パスワード：cisco、SNMP コミュニティ：public）を使用してデバイスにアクセスしようとします。デバイス設定がデフォルトから変更されている場合は、ユーザーが正しいログイン情報を Cisco Business ダッシュボードに入力する必要があります。
- Q.** Cisco Business ダッシュボードに保存されているログイン情報はどの程度安全ですか。
- A.** Cisco Business ダッシュボードにアクセスするためのログイン情報は、SHA512 アルゴリズムを使用して不可逆的にハッシュ化されます。デバイスと、**Cisco Active Advisor** などの

その他のサービスのためのクレデンシャルは、AES-128アルゴリズムを使用して不可逆的に暗号化されます。

- Q.** Web UI 用のパスワードをなくした場合、どのようにすれば回復できますか。
- A.** Web UI のすべての admin アカウントのパスワードをなくした場合は、Probe のコンソールにログインして **cbdprobe recoverpassword** ツールを実行するか、Dashboard のコンソールにログインして **cisco-business-dashboard recoverpassword** ツールを実行することで、パスワードを回復できます。このツールは、cisco アカウントのパスワードをデフォルトの cisco にリセットします。cisco アカウントが削除されている場合は、デフォルトのアカウントを使用してアカウントを作成します。以下に、このツールを使用してパスワードを回復するために実行するコマンドの例を示します。

```
cisco@cisco-business-dashboard:~$ cisco-business-dashboard recoverpassword
Are you sure? (y/n) y
Recovered the cisco account to default password
recoverpassword Cisco Business Dashboard successful!
cisco@cisco-buisness-dashboard:~$
```



- (注) Cisco Business ダッシュボード for AWS を使用する場合、パスワードは AWS インスタンス ID に設定されます。

- Q.** 仮想マシンプートローダーのデフォルトのユーザー名とパスワードは何ですか。
- A.** 仮想マシンプートローダーのデフォルトのログイン情報の場合、ユーザー名は **root**、パスワードは **cisco** です。これらを変更するには、**config_vm** ツールを実行し、ブートローダーのパスワードを変更するかどうかを尋ねられたら、「yes」と応答します。
- Q.** ダッシュボードはネットワーク アクセス デバイスをどのように認証しますか。
- A.** ダッシュボードは 2 つのレベルの認証を使用します。
- まず、着信要求の送信元 IP アドレスが、NAT が使用されている場合はダッシュボードによって管理されるネットワークの外部 IP アドレスと比較され、NAT が使用されていない場合はネットワークの内部サブネットと比較されます。
 - 次に、組織ごとに一意のランダム化された RADIUS シークレットが作成され、ネットワーク アクセス デバイスによってその要求で使用される必要があります。

リモートアクセスの FAQ

- Q.** デバイスの管理インターフェイスに Cisco Business ダッシュボード から接続した場合、セッションはセキュリティ保護されますか。
- A.** Cisco Business ダッシュボード リモートアクセスセッションを、デバイスとユーザーの間でトンネリングします。Probe とデバイス間で使用されるプロトコルはエンドデバイスの設定によって変わりますが、Cisco Business ダッシュボードは、セキュアなプロトコルが有効になっていれば、必ずそのプロトコルを使用してセッションを確立します（たとえ

ば、HTTPSはHTTPよりも優先されます)。ユーザーがDashboardを介してデバイスに接続している場合、セッションは、DashboardとProbeの間を通過するときに、デバイスで有効になっているプロトコルにかかわらず、暗号化されたトンネルを通過します。ユーザーのWebブラウザとDashboardの間の接続は常にHTTPSになります。

- Q. 別のデバイスとのリモートアクセスセッションをオープンしたときに、デバイスとのリモートアクセスセッションがすぐにログアウトするのはなぜですか。
- A. Cisco Business ダッシュボードを介してデバイスにアクセスすると、ブラウザは各接続を同じWebサーバー(Dashboard)との接続であると見なすため、各デバイスからのcookieを他のすべてのデバイスに提供します。複数のデバイスが同じcookie名を使用する場合、あるデバイスのcookieが別のデバイスによって上書きされる可能性があります。これは、セッションcookieで最も頻繁に発生し、最後に訪れたデバイスに対してのみcookieが有効であるという結果になります。同じcookie名を使用する他のすべてのデバイスはそのcookieを無効と見なし、セッションをログアウトします。
- Q. リモートアクセスセッションが以下のようなエラーで失敗するのはなぜですか。アクセスエラー：リクエストエンティティが大きすぎます。HTTPヘッダーフィールドがサポートされているサイズを超えています。
- A. 異なるデバイスと多数のリモートアクセスセッションを確立すると、ブラウザにはDashboardドメイン用に大量のcookieが保存されます。この問題を回避するには、ブラウザコントロールを使用してドメインのcookieをクリアしてから、ページを再ロードしてください。

ソフトウェアアップデートのFAQ

- Q. Dashboardのオペレーティングシステムを最新に保つにはどうすればよいですか。
- A. Dashboardは、オペレーティングシステムにUbuntu Linuxディストリビューションを使用しています。パッケージとカーネルは、Ubuntuの標準的なプロセスを使用して更新できます。たとえば、手動更新を行うには、コンソールにciscoユーザでログオンし、コマンドsudo apt-get updateおよびsudo apt-get upgradeを実行します。システムを新しいUbuntuリリースにアップグレードしてはならず、シスコによって提供されている仮想マシンに含まれているパッケージ、または最小限のUbuntuインストールの一部としてインストールされたパッケージ以外の追加パッケージをインストールしないことを推奨します。
- Q. DashboardでJavaを更新するにはどうすればよいですか。
- A. Cisco Business ダッシュボードはUbuntuリポジトリのOpenJDKパッケージを使用します。OpenJDKはコアオペレーティングシステムの更新の一部として自動的に更新されます。
- Q. Probeのオペレーティングシステムを最新に保つにはどうすればよいですか。
- A. Cisco Business ダッシュボードはオペレーティングシステムにUbuntu Linuxディストリビューションを使用しています。パッケージとカーネルは、Ubuntuの標準的なプロセスを使用して更新できます。たとえば、手動更新を行うには、コンソールにciscoユーザでログオンし、コマンドsudo apt-get updateおよびsudo apt-get upgradeを実行します。システムを新しいUbuntuリリースにアップグレードしてはならず、シスコによって提供されている仮想マシンに含まれているパッケージ、または最小限のUbuntuインス

ツールの一部としてインストールされたパッケージ以外の追加パッケージをインストールしないことを推奨します。

- Q.** Raspberry Pi を使用している場合に Probe のオペレーティングシステムを最新に保つにはどうすればよいですか。
- A.** Raspbian パッケージおよびカーネルは、Debian ベースの Linux ディストリビューションに使用される標準プロセスを使用して更新できます。たとえば、手動更新を行うには、コンソールに `cisco` ユーザでログオンし、コマンド `sudo apt-get update` および `sudo apt-get upgrade` を実行します。システムを Raspbian の新しいメジャーリリースにアップグレードすることはできません。Raspbian ディストリビューションの「Lite」バージョンの一部としてインストールされているパッケージ、および Probe インストーラによって追加されたパッケージよりも新しいバージョンのパッケージを追加しないことを推奨します。
- Q.** Cisco Business Dashboard 2.3.0 に Ubuntu 20.04 (Focal Fossa) のサポートが追加されました。システムを 2.3.0 にアップグレードした場合、オペレーティングシステムを Ubuntu 16.04 から Ubuntu 20.04 にアップグレードできますか。
- A.** 残念ながら、2つのオペレーティングシステムリリース間の変更は、インプレースアップグレードを実行するには大きすぎます。Ubuntu 16.04 を実行している既存のシステムがある場合は、Dashboard をリリース 2.3.0 にアップグレードしてから、**[System] > [Backup]** ページを使用して Dashboard のバックアップを作成する必要があります。次に、Ubuntu 20.04 を使用して Dashboard を再構築するか、Ubuntu 20.04 に基づいて新しい Dashboard インストールを実行します。その後、古い Dashboard から新しい Dashboard にバックアップを復元できます。
- Q.** Cisco Business Dashboard 2.3.0 に Ubuntu 20.04 (Focal Fossa) のサポートが追加されました。システムを 2.3.0 にアップグレードした場合、オペレーティングシステムを Ubuntu 16.04 から Ubuntu 20.04 にアップグレードできますか。
- A.** 残念ながら、2つのオペレーティングシステムリリース間の変更は、インプレースアップグレードを実行するには大きすぎます。Ubuntu 16.04 を実行している既存のシステムがある場合は、Dashboard をリリース 2.3.0 にアップグレードしてから、**[System] > [Backup]** ページを使用して Dashboard のバックアップを作成する必要があります。次に、Ubuntu 20.04 を使用して Dashboard を再構築するか、Ubuntu 20.04 に基づいて新しい Dashboard インストールを実行します。その後、古い Dashboard から新しい Dashboard にバックアップを復元できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。